

平成27年度

事業報告書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

学校法人 高野山学園

# 目 次

## I. 法人の概要

1. 法人の目的
2. 設置する学校の所在地等
3. 設置する学校・学部・学科等
4. 入学定員及び学生数
  - (1) 高野山大学
  - (2) 高野山高等学校
  - (3) 高野山幼稚園（高野山こども園）
  
5. 役員・教職員数
  - (1) 役員
  - (2) 教職員数

## II. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部
2. 高野山大学
  - (1) 事業の概要
  - (2) 今後の課題
3. 高野山高等学校
  - (1) 総論
  - (2) 現状
  - (3) 平成27年度事業報告
  - (4) 事業の概要
4. 高野山幼稚園（高野山こども園）
  - (1) 事業の概要
  - (2) 今後の課題

## III. 財務状況

## I. 法人の概要

### 1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

### 2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2922	事務局長 : 和田友伸
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2921 (代)	学長 : 藤田 光寛
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL : 0736-56-2204 (代)	校長 : 岡本 彌久
高野山幼稚園 (高野山こども園)	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL : 0736-56-2320	園長 : 佐々木基文

### 3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科、人間学科	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
別科			
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山幼稚園（高野山こども園）			

### 4. 入学定員及び学生数（平成 27 年 5 月 1 日現在）

#### （1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	20		117
	人間学科	20	5		5
	計	50	25	200	122
大学院	密教学専攻 修士課程	13	5	26	14
	博士後期課程	3	0	9	2
	修士課程（通信教育課程）	20	27	40	140
	仏教学専攻 修士課程	8	0	16	1
	博士後期課程	3	0	9	0
	計	47	35	100	172
	別科	30	17	60	39

(2) 高野山高等学校全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	43	360	124
宗教科	20	9	90	21
計	80	52	450	145

広域通信制課程（平成28年3月31日現在）

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	900	7	900	7

(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	収容定員	幼児数
こども園	96	81

5. 役員・教職員数（平成27年5月1日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	添田 隆昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

## (2) 教職員

### ①法人本部

区分	専任職員	契約職員
事務局	1	1

### ②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1	12	5	6	29

区分	専任職員	契約職員	非常勤職員
事務職員	13	8	7

### ③高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1	1	16(2)	10

区分	専任職員
事務職員	13

区分	非常勤職員
事務職員	3

### ④高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	園長	専任教諭	契約教諭	非常勤講師	非常勤職員
教育職員	1	4	4	3	2

## II. 事業の概要

### 1. 高野山学園法人本部

平成28年度に学園創立130周年を迎えるにあたり、学校法人全体のさらなる飛躍を目指し、本学園における様々な課題を乗り越える体制を整えてきた。

主な取り組みとしては、理事会運営のガバナンス強化、学生・生徒のための教育支援・環境整備、適正な大学運営と情報公開、地域との連携による社会貢献であり、本学園の経営強化を図ることに努めた。

平成27年度には、大学においては人間学科を新設、高校においては通信制を開校し、学園改革に取り組んでいる。

今後も創立130周年を機に、学園のさらなる発展を目指していく。

### 2. 高野山大学

高野山大学は、日本で初めて一般庶民に開かれた教育機関を構想した弘法大師・空海の思想に基づき誕生した大学であり、広く社会へ優れた人材を送り出してきた。平成28年度に創立130周年を迎えるにあたり、専門的・実践的な僧侶の教育をより一層充実させるとともに次世代の地域社会を担うリーダーの育成に必要なプログラムの構築に努めてきた。

平成27年度には、文学部密教学科の1学科だけとなっていた体制を改め、新たに人間学科を新設し、困難な時代を生き抜く人間力を育むことに努めている。

#### (1) 事業の概要

##### ①教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み

###### ■人間学科の新設

文学部人間学科を定員20名で新設し、「哲学」、「歴史学」、「心理学」、「文学」、「社会学」の5つの学問領域を学ぶことにより、幅広い視点から人間を考察することによって、人間の奥深さや多面性への理解を深めることを目標とし、地域や社会で活躍できる人材の育成を目指している。

###### ■別科スピリチュアルケアコースの充実

平成26年度より大阪の中之島で開講しているスピリチュアルコースは、スピリチュアルケアに対する社会的関心の高まりを踏まえ、期待されるニーズに応えるべく教育内容のさらなる充実に努めた。

## ■臨床宗教教養講座の開講

大学院修士課程のサテライト教室として臨床宗教教養講座を東京で平成27年9月より新たに開講した。25科目に個人スーパービジョンを加え、約20名の講師陣により、大学院修了者および在籍者で僧侶等宗教者の資格を有する者に対して「臨床宗教師」を付与する講義を実施している。平成28年度には、東京のハリウッド大学院大学と連携し、さらに講座の充実を図る。

## ■高野山霊宝館との博学連携プロジェクトの推進

平成26年には霊宝館と高野山大学との博学連携プロジェクトを始動し、霊宝館の所蔵する御影堂文書の資料をデジタル化し整理・保管・調査を進めている。今後も基本業務を継続しながら、芸術分野に関する業務も行っていく。

## ■保護者懇談会の実施

平成27年度も保護者に対し、本学の活動について説明するとともに、在学生の日頃の生活や学業の進捗状況、就職・進学などの卒業後の進路について、個別相談の場を設けて相談を受けた。

## ②社会貢献への取り組みー公開講座・寄附講座ー

### ■高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

テーマ：宇宙の摂理への想いー科学と宗教の視点からー

日程：平成27年8月29日（土）、於 大阪国際会議場

講演1：「半導体ー原子の世界でものづくりー」

西義雄先生（スタンフォード大学教授兼システム研究アライアンス会長）

講演2：「空海の想いー自然から意味の世界へー」

村上保壽先生（高野山大学名誉教授）

講演3：「瓦礫にいのちがあるか」

松長有慶猯下（高野山大学名誉教授 高野山金剛峯寺前座主）

日程：平成28年2月20日（土）、於 グランフロント大阪

講演1：「小さな気泡の不思議な世界ーマイクロバブルとナノバブルの基礎とその応用ー」

高橋正好先生（国立研究開発法人産業技術研究所 研究管理技術部門研究主幹）

講演2：「水のいのちー真言密教の生命観ー」

松長有慶猯下（高野山大学名誉教授 高野山金剛峯寺前座主）



## ■高野山大学別科スピリチュアルケコース公開講座

テーマ：生老病死のスピリチュアルケア

日程：平成27年9月23日 於 大阪サテライトキャンパス（大阪大学中之島センター）

講演1：「自殺予防の基礎知識」

高橋祥友先生（筑波大学 医学医療系災害精神支援学教授）

講演2：「生きることを支えるー自殺防止の現場からー」

藤藪庸一先生（白浜パプテストキリスト教会牧師）

## ■高野山大学連続講座

日程：平成28年2月15日～3月11日 於 大阪サテライトキャンパス（大阪大学中之島センター）

講座1：人物で読む「平家物語」 高野山大学助教 濱畑圭吾

講座2：奈良仏教の世界ー空海・最澄の登場前史ー 高野山大学助教 櫻木潤

講座3：慈円「愚管抄」を読む 高野山大学助教 坂口太郎

講座4：「日本の書聖 空海」の書と書学（理論）高野山大学助教 野田悟

講座5：心身の調整ー自己のいのちと向かい合うー 高野山大学助教 森崎雅好

講座6：真言密教の実践行 密教文化研究所 委託研究員 北川真寛

講座7：「即身成仏義」を読むー弘法大師の思想入門ー 高野山大学助教 土居夏樹

講座8：チベット語入門 高野山大学 准教授 加納和雄

## ■高野町との友好協力協定の締結

平成27年9月に高野町と次の事業についての協力を推進するため、協定を締結した。

- ①地方創生のための調査研究の推進と検証の実施
- ②生涯学習社会における諸課題への対応
- ③高野山学の開講にともなう諸課題への対応
- ④相互施設の利用と活用

## ■高野山学の開講

平成16年4月から、一般の方を対象に、高野町と連携し、「高野山学」を開講している。高野山学は、真言密教の聖地として独自の歴史と文化を育んできた高野山の歴史を「学び」として体系化するもので、本学教員も講師を務めた。

### ③密教文化研究所の活動

#### 1. 事業方針および成果の概要

平成27年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究会をはじめとする諸活動を活発に行った。

はじめに、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」に関して、「弘法大師著作研究会」が発足し、定期的に学内外の研究者が集う場が設けられたことは、研究の深化のみならず、学術交流においても大いに意義があったと評価する。また、「南山教学研究会」では、高野山内の論義法会として続けられている勸学会実修に協力、山内住職会と連携しながら活動の場を広げた。

次に、「密教の形成と流伝に関する研究」では、「南山進流声明研究会」において、学内外の僧侶が定期的に伝授を受け研鑽に励んでいる。「南山教学研究会」と共に実学的な研究の場が確立されたことは意義深い。

さらに、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」分野では、「宗教と科学の対話プロジェクト」の実証実験チームが、3年間にわたる研究の結果、「祈り」が心身に与える影響について科学的に解明、日本初となる成果を報告した。

また、平成27年度から、「フジキン小川修平記念講座講演会」が研究所の所管となり、8月および2月に講演会を開催。「密教と現代社会の諸問題に関する研究」課題に関し、広く社会への普及に努めた。

最後に、ダライ・ラマ法王庁から派遣されたチベット僧（ゲシェー）をはじめ、タイ、中国、アメリカから研究員を受け入れるなど、密教文化に関して海外からの関心と期待を集めた一年でもあった。

#### 2. 活動実績

##### [1] 研究会活動

##### (1) 密教文化研究所研究会

平成27年度は全7回開催、9名の研究員・研究所員が研究成果を発表し、学術的交流を行った。日本・インド・チベットの密教・仏教全般にわたる経典等の研究をはじめ、医療や教育の現場において仏教が果たす役割の考察など、幅広い立場からの発表と議論が行われた。

##### (2) 弘法大師著作研究会

「弘法大師の思想とその展開に関する研究」分野の強化のため、平成27年度か

ら『秘蔵宝鑰』をテキストとして研究会を立ち上げ、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確かつ忠実に読解していく作業を行っている。その学術的成果を平成28年度以降に『密教文化研究所紀要』別冊として公表、さらには一般にも理解できる形で公刊することも視野に入れている。

会員は学内外の研究者17名。研究会は月2回、全15回開催した。

### (3) 南山教学研究会

高野山に伝わる論義書の研究や整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究と共に実際の論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的に活動。学内外の研究者、山内御住職、大学院生、大学生等が集う。平成27年度は論議書の輪読会を3回、研究発表2回の実施に加え、宗学連携事業として、勸学会実修に協力、資料の整備や講義等を行った。

### (4) 南山進流 声明研究会

南山進流の実修および歴史・文化をはじめとする教学的裏付け・位置づけを学び、後世に伝承することを目的に活動。宮田永明大阿を能化とし、14名の会員が21回にわたり、『声明類聚』の伝授・講義を受けた。

### (5) プロジェクト「宗教と科学の対話」

平成25年から開始、プロジェクトの推進役として、村上和雄筑波大学名誉教授（公益財団法人国際科学振興財団バイオ研究所長）を招聘し、研究部門9名・実証部門10名に分かれて、宗教と科学が有する今日的意義について議論と研究を行ってきた。

平成27年度は、研究会2回に加え、祈りや瞑想が遺伝子に与える変化をテーマに実験を重ねてきた実証部門の成果報告会を開催した。その中で、祈りを実践する僧侶に特有な「僧侶型遺伝子」（細胞内でのウィルス増殖を阻害する働き等が含まれる）が確認されたことと共に、一般人にも護摩行の場に身を置くだけで変動する「祈りの場遺伝子」が発見され、ガン遺伝子の抑制など免疫力の向上に資することが報告された。「祈り」が心身に与える影響について科学的に検証したのは、日本においては初の成果である。

## [2] 講演会活動

フジキン小川修平記念講座講演会「宇宙の摂理への思い～科学と宗教の視点から」現代社会の抱える問題に真言密教をはじめとする宗教および科学はどのように応えることができるのかという社会的期待に応えるとともに、本講座を通して、多くの方に

現代の諸問題を考える上での一つの道標を示すことを目的に開催。平成27年度は全2回開催。8/29は400名、2/20は300名の参加があった。

### [3] 出版

『密教文化研究所紀要』第29号発行

研究所の研究成果を公表することで、研究者の動機づけや研究者間の学術的交流を図ると共に、当研究所の活動内容、ひいては真言密教について広く学内外に認知してもらうため、平成28年3月刊行。全7件の投稿があり、査読の結果4件が採用された。

### [4] その他活動

#### (1) フジキン新入社員研修

(株)フジキンから真言密教の教学のエッセンスを新人研修に取り入れたいとの要望を受け、高野山での2泊3日研修が実現。平成26年度から研究所が所管、社会貢献と共に、実社会のニーズを研究所事業に取り入れる機会と位置付ける。平成28年3月に実施し、対象者は69名（引率者2名を含む）。研究所研究員が企画・講師をつとめた。

#### (2) 巡礼遍路研究会（研究所協賛事業）

四国八十八ヶ所や西国三十三所をはじめとする、全国各地の霊場巡礼に関する研究成果を発表する場を設け、巡礼遍路の歴史・文化を後世に継承することを目的に活動。

会員は210名。6月に研究会を開催、12月に会誌を発行した。

#### ④図書館の活動

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、昨年度に引き続き通常9時から20時の11時間を開館時間とした。本学学生・教職員をはじめ同窓生や一般利用者への貸出・返却・レファレンスと、資料の発注・受入・整理等の他、下記の諸事業を図書館では展開した。

##### ◇図書館報『それゆけ!としょかんだより』

毎月、上記の図書館報を発行して、館内では紙媒体でのフリーペーパーで公にして、インターネット上では、図書館のホームページで順次、90号～99号発行までを公開した。そこでは、下西図書館長の論考をはじめ、図書館の近況やニュースを報じた。

##### ◇図書館戸田文化講座開催

平成27年度における同文化講座は、下記の6回を開催して好評までに終わることができた。参加者は20名から40名程で、本学教職員・学生だけでなく、広く県外や高野山山麓の橋本市・かつらぎ町・和歌山市からも一般の参加者があった。

##### 第1回 「能の世界-謡と仕舞-」

講師：浜畑圭吾(本学助教)

日時：6月16日(火)16時40分～18時00分

場所：高野山大学2階202号教室(和室)

##### 第2回 「中門再建について」

講師：高野山宮大工の尾上恵治(高野山宮大工)

日時：7月7日(火)16時40分～18時00分

場所：高野山大学2階205号教室

##### 第3回 「(体験)高野紙紙漉き」

講師：飯野尚子(高野町教育委員会)

日時：10月6日(火)14時00分～15時30分

場所：高野町中央公民館 2階

第4回 「高野七口について：国史跡追加指定高野参詣道」

講師：入谷和也(元和歌山県教育委員会教育企画員)

日時：10月29日(木)16時40分～18時00分

場所：高野山大学本館2階205号教室

第5回 「一石五輪塔から位牌へ：納骨信仰の観点から」

講師：鳥羽正剛(高野山霊宝館)

日時：11月10日(火)16時40分～18時00分

場所：高野山大学本館2階205号教室

第6回 「仏教と文学」

講師：下西忠(図書館長)

日時：11月26日(木)16時40分～18時00分

場所：高野山大学本館2階205号教室

◇図書館茶話会開催

図書館の閲覧室を会場として、本学裏千家茶道部と提携して、平成27年度において下記の2回の同茶話会を開催した。参加者は50人程度で、本学学生や教職員が下西図書館長を囲んで忌憚のない意見交換会ともなった。なお、この図書館茶話会とは別に11月1日(日曜日)のオープンキャンパスの際に、本学裏千家茶道部は図書館閲覧室において見学者対象にお茶の接待をした。

第1回「図書館茶話会 - 図書館長を囲んで - 」

主催：茶道部

後援：高野山大学図書館

日時：7月22日(水)17時～18時

場所：図書館2階閲覧室

第2回「図書館茶話会 - 図書館長を囲んで - 」

主催：本学茶道部

後援：高野山大学図書館

日時：11月24日(火)17時～18時

場所：図書館2階閲覧室

◇給茶機とコーヒーサービス

前年度に引き続き、利用者サービスの一環として、お茶の無料サービスとコーヒーを安価に提供するサービスを導入。それに合わせ休憩スペースを設けた。

◇他大学・関係団体との提携

高野山開創1200年記念和歌山地域コンソーシアム図書館企画展

「高野山をめぐる歴史と文化」開催

日時：平成27年4月10日（金）～5月21日（木）

展示場所：図書館2階閲覧室

高等教育機関コンソーシアム和歌山・わかやま学記念フォーラム

「高野山開創1200年 高野山をめぐる歴史と文化」講演会参加

日程：平成27年10月31日（土）

場所：和歌山大学松下会館

講演：下西忠図書館長「西行と高野山」

資料紹介：木下浩良課長「高野山大学図書館所蔵の古典籍－西行の時代の資料を中心として－」

◇ポストカード『高野八景』の作成

所蔵の貴重資料『高野八景』を元にポストカード作成した。解説は下西忠図書館長・浜畑圭吾助教。8枚セットで、購入希望者には安価で販売した。

◇『高野山之図』クリアファイルの増刷

前年度作成の本学所蔵の貴重資料『高野山之図』クリアファイルを増刷して、来館の希望者には安価で販売し、本学来校者やオープンキャンパスで配布した。

◇高野山霊宝館との連携

前年度に引き続き、平成27年度についても、高野山霊宝館から移管の高野山龍光院聖教類の目録作りのための調査・研究を、武内孝善教授を中心とする調査チームを編成して実行した。

#### ◇篠田禹子文庫の整理

前年度に引き続き、平成27年度についても、表記文庫の整理を、下西図書館長を中心に行った。なお、同文庫は東京都足立区在住の篠田禹子氏より寄贈を受けた書画骨董類である。

#### ◇所蔵雑誌『遍路』（1931年～1942年 遍路同好会刊）復刻版の刊行

近代の遍路を知るために不可欠な貴重資料の所蔵雑誌『遍路』を東京の不二出版より、A5判・上製本・総1,238頁、全3冊で復刻し、合わせて下西忠図書館長による解説と総目次・索引が別冊として公刊した。

## （2）今後の課題

### 大学の改善・改革に向けて

#### ■教育充実のための取り組み

##### ①新カリキュラムへの改編等

##### a. 密教学科

密教学科のカリキュラムは、①古典に学ぶ、②伝統文化を学ぶ、③人と関わる、④社会に活かす、⑤僧侶育成の5つを柱としており、これらをさらに強化すべく平成29年度からの新カリキュラムを導入する。

ア. 遍路体験実習を通じて、僧侶としての心構えを学ばせる。

・弘法大師の存在の大きさ、弘法大師に寄せる人々の思いを実感し、社会が真言僧侶に求めるものを理解することで、僧侶としての誇りと使命感を培う。

・遍路における人々との触れ合いから人と関わる力を高め、社会人としての基礎を固める。

・遍路についての事前調査、遍路体験報告でのプレゼンテーションを通して、調査研究能力と発信力を高める。

イ. 已灌頂者を対象とした講義を新設し、より高度な知識・技能を身につけた僧侶を育成する。

ウ. 管長猥下を始め、高野山内の僧侶の方々に特別講師として実際の経験に基づく住職教育を行う。合わせて寺院経営についての講義も行う。

エ. 高度な密教研究に触れることができるよう本学名誉教授や高名な研究者の講義を行う。



オ. 臨床宗教師の資格科目を開講し、臨床能力の高い宗教家を育成する。

b. 人間学科

平成27年度に新設した人間学科は、「人間とは何か」を学ぶ学科であり、人間らしい社会の在り方を考え、人間らしい生き方をそれぞれの人生において探求するための土台を形成する。

ア. ゼミやプロジェクトを通して様々な人との関わりの機会を提供する。すべての学年で必修のゼミでの発表、討論を学びの中心とし、コミュニケーション力、文章力、発信力を高める。

イ. 学生一人ひとりに対する学習指導を徹底するため、個人指導の時間を設けてきめ細やかな学習支援を行う。

ウ. 高野町と連携した町づくりに参画する講義を通して様々な年代の人とコミュニケーションを図る力を育み、問題を解決するための手法を学び、社会人としての基礎力を身につける。

エ. 哲学・歴史学・文学・心理学・社会学を総合的に学び、様々な角度から物事を考える力を培う。

オ. スピリチュアルケア士の資格科目を開講する。

■学生数の定員充足に向けた募集活動

定員充足に向けて学科ごとに学生募集戦略を立案し、全教職員が一丸となって募集活動を行っていく。平成28年度には創立130周年を機に新たな取り組みを行うことをPRするメッセージを広く発信することで募集層の拡大を図る。

### 3. 高野山高等学校

#### (1) 総論

高野山高校では、平成27年度入学者が52名であり、目標数の60名に届かなかったため、次年度は目標値に届く努力をしていきたい。特に地元の高野山中学校からの入学者を増やすよう努力していく。

平成28年度においても現行の取り組みを継続して実施する。生徒指導においては宗教教育を中心に据え、心の教育に力点を置き、卒業生や保護者から一定の評価を得ている。

今後は、経営基盤を安定させるために生徒増を図る努力と、従来以上の収入を確保するための事業展開が必要であることから、通信制課程を平成27年9月1日に開校し、10月に4名の入学者を迎え入学式を挙行了した。

平成27年の開創法会にあたり、入学式を3月29日に挙行、2・3年生の始業式を4月1日に行い、4月2日からの法会には各学年授業をしながら、本山等に出仕した。

#### (2) 現状

##### ①高野山高校の生徒数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生徒数(宗教科生徒数)	160(26)	145(23)	143(27)	152(25)	145(21)
入学者数(宗教科生徒数)	56(6)	54(11)	46(10)	63(8)	52(9)
高野山大学への進学者数	9	11	5	6	3

##### ②分析

###### ■生徒数の推移

平成27年度の入学者は、平成26年度に比べて減少したが、入学者の目標数60名を達成できるよう効果的な募集活動に努める。

#### (3) 平成27年度事業報告

##### ①業務改善

###### ■校長・教頭による生徒募集の強化

生徒募集の訪問活動を、校長・教頭を中心に実施した。平成25年度から募集担当職員を法人本部で雇用し、伊都地方の中学・塾を今迄以上に訪問した。地道な生徒募集活動の他、地元の高野山中学校から入学した生徒には授業料減免の措置を講じたために、一定の結果が得られてきた。町より補助金50万円の増額は継続して交付を受けた。

## ②投資的事業

### ■スクールバスの運行

紀の川筋からの生徒獲得を企図し、スクールバスを運行。平成27年度利用生徒22名。平成28年度利用生徒20名の他、寄宿舎生が高野町外の病院へ通院する際や帰省の折、片道500円で利用出来る事も可能で好評である。

### ■通信教育制度

平成28年3月15日、通信制の卒業式を初めて挙行し、2名が巣立った。

## (4) 事業の概要

### ①教育に関する取り組み

#### ■普通科・宗教科における教育内容

#### ・普通科特別進学コース・自己探求コース

普通科特別進学コースでは演習の時間を設け、個別指導を重点におき、自己探求コースにおいて、数学では公文式教材を使用し個別指導、国語は漢字能力検定用の教材を使用し個別指導、英語ではインターネットを利用した個人指導を行なった。英、数、国に関しては3学年共、習熟度別にクラスを編成して授業を実施している。

また、1学年の基礎学力未定着者に対しては、「学び直し」の補習を、3年生も希望進路に向けて、放課後や土曜日を利用し、英、数、国の補習授業を実施した。長期休暇には各学期に定期考査の基準点に到達していない生徒を対象に、補習や進学・就職対策講座を実施している。

#### ・普通科スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）

スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）では、体育理論やスポーツⅡの授業において、それぞれの競技をより専門的に学び、技術の向上は勿論、指導方法なども体験の中から学んでいる。硬式野球部は秋季近畿地区県予選において準優勝し、近畿大会にて龍谷大平安高校に敗れるが、甲子園に一步ずつ近づいている。女子ハンドボール部については4月に日体大より舎監として1名採用し、平成27年開部にむけて生徒募集を始め、3名の部員で練習を始めた。国体の県ハンドボールコーチとしても活躍。サッカー部については、28年度からは課外クラブとし、より活発な活動を目指す。

## ・宗教科

宗教科では、創立130周年事業として平成28年3月17日から21日まで、祈親灯を携え、長谷寺まで行脚した。また、開創法会期間中には、各地で紙芝居による大師伝を演じ、いずれも好評を得た。

## ■国際交流

- ・平成27年12月25日～12月28日、インターアクトクラブが台湾研修を実施。
- ・平成28年2月1日～2月5日、2年生スポーツコースがグアムに研修旅行を実施。

## ■学校行事

実施した主な年間行事は以下のとおり。

1. 音楽法会・育友会総会 5月16日(土)
2. 青葉祭前夜祭 6月14日(日)
3. 青葉祭 6月15日(月)
4. 明神社大祭 10月16日(金)
5. 南嶺祭(文化祭) 10月17日(土)、18日(日)
6. 四国遍路 10月22日(木)～26日(月)
7. 追悼法会・公開授業 11月14日(土)

## ■ボランティア活動

報恩日に実施している金剛峯寺での清掃奉仕を続けると共に開創法会記念紙芝居を全国各地で実施した。

## ■平成27年度進学実績

今年度は、宮崎大学医学部や、青山学院大学法学部、立命館大学産業社会学部等、特別進学コース生徒の進路実績もまずまずであった。

[平成27年度卒業生合格先一覧]

大学・短期大学

<普通科(特別進学)>

宮崎大学(医学部) 青山学院大学(法学部) 中央大学(総合政策学部) 法政大学(法学部)

立命館大学(産業社会学部) 関西看護医療大学(看護学部) 佛教大学(教育学部)

京都文教大学(心理学部) 帝塚山大学(臨床心理学部) 防衛大学校(一次試験合格)

< 宗教科・普通科（スポーツ／自己探求） >

姫路独協大学(人間社会学群) 帝塚山学院大学(情報メディア学部) 大谷大学(文学部)  
神戸学院大学(総合リハビリテーション学部) 太成学院大学(経済学部・経営学部・人間学部)  
名古屋学院大学(スポーツ健康学部) プール学院大学(教育学部) 大正大学(仏教学部)  
名古屋産業大学(環境情報ビジネス学部) 大阪芸術大学(芸術学部) 大阪芸術大学(短期大学部)  
夙川学院短期大学(幼児教育学科) 大阪大谷大学(スポーツ健康学科) 高野山大学(文学部)  
専門学校

< 普通科（スポーツ／自己探求） >

京都建築大学校 関西美容専門学校 臨床福祉専門学校 都立職業能力開発センター  
就職

< 普通科（スポーツ／自己探求） >

明隆海運株式会社 株式会社田村コピー 株式会社全日警 株式会社サンオー  
有限会社コレック 中央港運株式会社 (株)良金興業 自衛隊

## ②生徒募集に向けた取り組み

大阪・奈良・和歌山方面各中学校、学習塾への訪問。各中学校・塾、全国高野山真言宗寺院(他宗派寺院含む)へのダイレクトメール郵送。また、以下のような募集活動を実施した。

### ■学校説明会

#### ・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会 ( 9月16日)  
伊都地方中学校合同説明会 (10月15日)  
奈良県中学校合同説明会 (10月17日)  
泉南地区中学校合同説明会 (10月18日 ※資料参加)  
高野山中学校 説明会 (11月10日)

#### ・学習塾、各種団体主催

中和教育研究会 ( 9月20日)  
関西私塾教育連盟主催教育セミナー ( 9月28日)  
五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会 (10月11日)  
泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会 (11月 8日)  
和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会 (12月14日)  
全寮協主催「寮のある学校説明会」

名古屋（11/13）、大阪（11/14）、横浜（11/20）、東京（11/21）

### ■体験入寮・体験スクール

対象者に施設・設備を開放し、各コースの詳細説明や、実際に一日寄宿してもらい寮生活を体験して頂く事業。第1日目午後から寮見学と宿泊体験。翌日は学校説明会で各学科、コースのプレゼンテーションにより、本校の教育内容を分かりやすく提示した。イベント告知の展開は、中学校、塾への訪問の際、当イベントのチラシを持参。過年度の資料請求者へも案内を送付した。

第1回：平成27年 8月29日（土）・30日（日）

第2回：平成27年11月 7日（土）・ 8日（日）

第3回：平成27年12月12日（土）・13日（日）

参加者：35名（3回の合計）

### ■公開授業

実施日 平成27年11月14日（土）

### ■公開実力テスト

和歌山：平成27年12月13日（日） 39名

### ■教育講演会

大阪、奈良、和歌山の学習塾（約1,300件）にイベント案内を送付。本教育講演会は、一度に多数の塾関係者や教師と親交を保ち、本校の教育内容を披瀝する事の出来る機会である。

#### ・伊都地方

日 程：平成27年7月14日（水）

会 場：橋本市産業文化会館

対 象：伊都地方中学校長及び進路指導担当教員

演 目：宗教科生徒による紙芝居「大師伝」

#### ・和歌山

日 程：平成27年9月15日（火）

会 場：和歌山ビッグ愛

対 象：和歌山県内塾関係者

演 目：宗教科生徒による紙芝居「大師伝」

参加者数：28名

・大阪

日 程：平成27年9月24日（木）

会 場：ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー8階

対 象：大阪・奈良塾関係者

講 師：添田隆昭 先生

講 題：「千の風になる前に知っておくべきこと」

参加者数：101名

■テレビ広告

和歌山テレビ制作で私学3校による学校紹介番組を放映

平成27年11月 1日（日）12:00～12:45

平成27年11月16日（月）19:00～19:45

■テレビ放映

平成27年11月5日（木） 関西テレビ「夕方ワンダー」に於いて空手部が紹介

平成27年11月6日（金） テレビ和歌山で全国弁論大会の一部が紹介

■新聞記事掲載

平成27年12月15日 朝日新聞関西版 高野山高校紹介

平成28年 1月20日 朝日新聞和歌山版 『海難1890』映画鑑賞会

平成28年 2月10日 毎日新聞和歌山版 えひめ丸慰霊法会

平成28年 3月21日 読売新聞和歌山版 祈親上人聖灯

平成28年 3月27日 毎日新聞和歌山版 祈親上人聖灯

■平成28年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専願	41	41	41
併願	37	37	1
合計	78	78	42

■平成27年11月3日、開創法会記念行事として、第60回文部科学大臣杯全国青年弁論大会を大師教会に於いて開催。全国から35名の弁士が参加した。

■平成27年11月23日、第2回黒河道雑事登りに野球部員23名が参加。

■校舎が1979年に新築され37年経過している為、ボイラー設備、重油用タンクの耐用年数が経過しつつあり劣化が著しい。又、耐震改修工事も施工しておらず他設備の補修と合わせると相当な経費がかかると思われるので、長期的展望に立つ資金計画策定が必要である。



#### 4. 高野山幼稚園（高野山こども園）

高野町との公設民営の形態で指定管理者として「高野山こども園」の運営を請け負い、1歳児から5歳児を対象とした長時間保育、3歳児から5歳児のみを対象とした短時間保育、預かり保育、長時間保育児を対象とした延長保育を実施し、2年目の運営を終えた。

この公設民営での「高野山こども園」の運営は、本学園が目指す宗教にもとづく「保育」という目的の相違に課題はあるものの、これまでの連携の成果の上に立ち、将来的な民設民営形態でのこども園の運営も視野に入れている。

##### （1）事業の概要

###### ①教育に関する取り組み

###### ■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

###### ■早朝保育と延長保育の実施

園児に対して、午前7時半からの早朝保育や午後5時以降の延長保育も行っており、地域の保護者からは好評を得ている。保育士の人材確保は難しい面があるが、こども園として地域の子育て支援の主体として活動している。

###### ■宗教教育

高野山という地域の持つ風土的特性にも考慮した形で宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育を実施し、保護者からも好評を得ている。

###### ②運営に関する取り組み

###### ■和歌山県・高野町との協議

和歌山県・高野町と協議して指導を受けながら、業務・運営に関する事項の改善に努めてきた。

###### ■施設・設備の環境整備

高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を指摘してきたが、すべてが改善されたわけではなく、今後も高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を進めていく。

## (2) 今後の課題

### ■「高野山幼稚園」と「高野山保育園」の一体化とその課題

現在は、「高野山こども園」（保育所型）として、設置は高野町とし、運営を学校法人高野山学園が行なう公設民営方式として幼保一体の事業を行っている。

公設民営方式での学園の特色を生かした教育・保育の実施や創意工夫をさらに進める可能性を探ることが課題である。そして、現在こども園として使用している旧高野山保育園園舎の老朽化の問題もあり、こども園の環境の整備のために、民設民営も視野に入れた新たな園舎の建設も含めて検討していくことが必要である。